



## 「令和5年度団体交流研修会」について



今年度の「団体交流研修会」を以下の内容で行いました。

- 1 日時 令和5年7月8日(土) 15:30～
- 2 場所 白兔会館
- 3 講師 落語家 桂 福点 氏
- 4 演題 「出会いと笑いの講演会」
- 5 懇親会



まちづくり協議会と公民館運営委員会が一体化して、修立地区全ての団体の皆さんが集まる初めての研修会となりました。しかも、講師さんが盲目の落語家の桂 福点さんとあって、会場は定員以上86名の皆さんがお出でになりました。



そうして始まった講演の内容を一言で表すなら、非常に「多彩」で「感動的」でした。生い立ち（目が見えにくくなるまでのこと）あり、見え方の変化を体験するコーナーあり、読み聞かせあり、さらには盲目時の心情の変化と自身の生き方を変えた出来事（この場面は涙なしには語れません）あり、まちづくりに関わ

る提言（「い・な・ば」の折句）あり、創作落語（この場面は会場が笑いの渦でした）あり、そしてフィナーレではオペラの独唱（音楽療法士の資格もあり）も拝聴いたしました。本当に本当に「多彩」で「感動的」で学びの多い90分間でした。スタッフとの遣り取りも含めると、膨大な時間をかけて準備をされたことが想像できます。本当に感謝です。



講演会終了後、皆さんから評価と感想をいただきました。右の表にその評価の割合を示していますが、今だかつてこれほど高い講演会の評価は見たことがありません。その感動は、いただいた感想にも表れていました。

大変よかった…	85.2%
よかった…	14.8%
あまり良くなかった…	0%
良くなかった…	0%

- とても感動した素敵な時間でした。コロナ時代の3年間でできなかったことを取り戻したいと強く思うとともに、そのきっかけとなる時間になりました。また、全ての人にその人しかない光、長所があるんだと思いました。私自身もいろいろな方と積極的に出会い、その出会いを大切にして、一人一人について理解するように努めていきたいと思いました。
- 最高でした。笑いのある地域、何でも悩みが話せて聞ける地域が、本当の意味の「まちづくり」だと良くわかりました。福点さんの優しさをヒシヒシと感じました。
- 初めて落語を体験しました。このようなチャンスをいただき、本当にありがとうございました。中々他人の気持ちや体温を感じるということは本当に難しい事ですが、自分の感度を上げて「もし自分なら」と置き換えながら考えていけるように努めていきたいと思いました。
- 子供のころから強く生きてこられた姿に感銘を受けました。「生きることは誰かの幸せにつながっていること」だと改めて感じさせられました。ぜひ小学生の子供たちにも、聞かせたい内容ですね。
- 元気がもらえたお話しでした。人は誰でも話をしながら、思いを正直に伝えることで心と心がつながっていくものです。お話の中で、支え合えるまちづくりとは「話せる場所があること」「笑いが絶えないこと」だとおっしゃっていました。今後は意図的に人とのつながりを作っていきたいと思いました。

皆さんの御協力のおかげで、盛会に終えることができました。本当にありがとうございました。

# 大地震を想定した「公民館避難所開設訓練」

8月6日(日)に、まちづくり協議会と自主防災会が協働して、これまで実施したことがなかった「避難所開設訓練」を初めて行いました。今年度に入って、7月1日には山口県で線状降水帯の発生による水害が起きたり、最近では7月13日に修立地区も朝から大雨に見舞われたりしており、こうした訓練の必要性が増してきたところですので、今回は地震を想定した訓練ですが、時宜を得た訓練となりました。



- 1 日時 令和5年8月6日(日)9時30分～
- 2 場所 修立地区公民館
- 3 想定 震度6弱の地震発生(午前9時)→直後に避難所を開設し、夕方までを過ごす状況
- 4 訓練内容 地震発生直後における避難所開設の初期手順と役割について学ぶ訓練

(1) 趣旨・開設手順説明

(2) グループ分けと班(役割分担)分け

本部班(3～4人) 安全班(2人) トイレ班(2～3人) 住居班(4～5人) 検温消毒・救護班(3人)

(3) 1グループ訓練開始(2グループの避難者に傷病者が多いパターン)

(4) 2グループ訓練開始(1グループの避難者に傷病者が少ないパターン)

(5) 反省会



今回の訓練のポイントは、以下の3点です。

① まち協と自主防が協働するとともに、防災リーダーの協力を得て行う初めての開設訓練

② 市役所の担当者が来られない状況下での開設訓練

③ 碧南市のファーストミッションボックスを活用した、避難所開設初期段階の訓練

とりわけ、実際の大地震の場合には、初期段階から情報が錯綜し、かなり混乱する状況が想定されます。そこでこうしたことをふまえ、①のように地区の人材を集約するとともに、②と③のように避難所開設の**初期段階の対応**にスポットを当てた訓練が必要だと考えてこの訓練を行いました。



この訓練では、参加者を2グループに分け、前半は1グループが受入れ役・2グループが避難者役となり、後半はグループの役割を入れ替えて訓練をしました。

以下は、当日の反省会で出された内容です。読んでいただきながら、訓練の様子を想像してください。反省会で出された内容は、今後の対応にしっかり活かしていきたいと思えます。

## <全体>

- ・ 各班の具体的な仕事内容の詳細必要
- ・ 情報の集約と流れを示す説明必要
- ・ 備品の内容と所在の共有が必要

## <住居班>

- ・ 部屋ごとの入居人数の表示が必要
- ・ 段ボールベッドの数が不足

## <検温・救護班>

- ・ 専門知識をもった人の参画必要
- ・ 停電を想定した器具の設置必要

## <本部班>

- ・ ボードを活用して情報の見える化共有が必要
- ・ 受付が混雑する・重傷者等の受入れ場所表示
- ・ 病院や他の避難場所等の連絡先体制

## <安全班>

- ・ 体育館使用についての基準が必要
- ・ チェックシートの詳細が必要

## <トイレ>

- ・ 設置場所や使用中等の表示とボード必要
- ・ マンホールトイレ等備品の確保必要

御参加いただいた皆さん、本当に御苦勞様でした。住民の皆さんの安全安心の確保に向けて、今後とも御協力をよろしくお願いいたします。